

学校名	武雄市立山内西小学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	①知的な学校【知的好奇心の育成】について ・教師間で情報交換をしながらICT機器を積極的に活用しわかりやすい授業を行ったことで、学習内容がよりわかると答えた児童が87％であった。また、「授業づくりのステップ1,2,3」を意識してステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」や「振り返り」はステップ3を達成した教員は72％であった。次年度は、基礎基本の学習内容の定着と思考力・判断力・表現力がさらに向上するように個別の指導・支援や家庭学習への取り組みを工夫し、学力の底上げを全職員で図ってきたい。 ②居心地のいい学校【自己肯定感の育成】について ・挨拶、返事、言葉遣いに関して、87％の児童が肯定的に取り組むことができていた。人権集会や異学年交流、道徳の時間を通して、自分も相手も大切にすることを育む教育活動を行ってきた結果、93％の児童が肯定的に捉えることができていた。今後も継続して取り組み、困っていることや辛い思いなど自分の気持ち传达えられるように教育相談体制を整え、家庭との連携を図っていきたい。また、教育活動を通して、児童の良さを伸ばし、一人一人を認め、励ましなが、自己肯定感を高める支援を行ってきたい。 ③元氣な学校【挑戦心の育成】について ・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行ったり、運動委員会が中心となって全校遊びを実施したりして、体力向上の取組を行った。全校で取り組むことで、体を動かすことを楽しみながら体力の向上に努めることができた。 ・「健康に食事は大切である」と回答する児童は、95％、「朝食をとって登校する」児童は、95％であり、望ましい食生活は向上した。家庭での基本的な生活習慣の定着に向けた取組についても、保護者アンケートでは87％の保護者が肯定的な回答をしている。食習慣の意識は高く、食事の大切さは認識できており、今後も発達段階に応じた食育年間指導計画に基づく計画的な指導を更に充実させていきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	①全職員の共通実践を通した教職員の資質向上 ②人権教育の更なる充実による児童の自己肯定感の育成 ③体育的行事の工夫による児童の健康・体力づくりの向上
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		達成度 (評価)	最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「授業づくりのステップ1, 2, 3」の全項目において、ステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」と「振り返り」はステップ3を達成した教職員が80％以上にする。 ○ICT（一人一台端末等）を活用して授業を行うことで、学習内容がよりわかると答えた児童が80％にする。	・「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 ・各学級や個人の事態に応じて授業の形態を工夫する（習熟度、少人数指導の実施）。 ・ICT機器を活用した授業を毎日1単位時間以上実施し、効果的だった授業実践等を共有する。	B	・「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用して、日頃の授業を振り返ることで、授業改善の意識を継続することができている。 ・学級や個人の事態に応じて少人数指導等を実施し、子ども一人一人に対応した授業を展開している。 ・タブレットの活用は日々行われている。効果的な活用方法についても、時間を見つけて情報交換をすることができている。	B	B	・「授業づくりのステップ1, 2, 3」のチェックリストを活用して自己評価をすることで授業改善の意識を継続することができた。ステップ2はほぼ達成できているがステップ3の達成は90％未満であった。 ・子どもを主体とした「わかる授業」の充実、ICT機器活用の授業、少人数・TT指導、家庭学習への取組などに努めることができたと思えた職員は、94％であった。 ・タブレットを使って学習を進めていくことで、「授業がよりわかる」と答えた児童は、96％であった。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○気持ちの良い挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童を（自己評価）85％以上にする。 ○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85％以上にする。	・集会活動や運動会、あいさつ運動等で異学年交流の機会を設け、思いやりのある関わり方を意識させる。 ・人権・同和教育、男女平等教育は全教育課程に位置付け、教育活動の中で周りの人とのつながりを感じさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合うことができるようにする。	A	・各集会が委員会を中心に充実した内容に、自然に異学年と交流できるように仕組んだ。子ども達は下学年に優しく温かい雰囲気の中で、元氣よく挨拶する姿が見られた。 ・「あいさつ運動」では、元氣な挨拶をした友達にシールを渡したことで、日ごろから教職員で、すべての子どもへの挨拶や言葉がけをし、児童一人一人に安心感、自己肯定感を与えるような指導や支援を心がけてきた。7月の平和集会では、自分たちが毎日、当たり前のように生活できることに感謝するように、戦争の恐ろしさや命の大切さについて考えさせることができた。	A	A	・全教職員で、あいさつや言葉遣いについての指導、声掛けを行った。 ・家や地域や学校で気持ちの良い挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童は98％だった。 ・人権週間では、児童がお世話になっている人へ、ありがとうの気持ちを伝える「思いやり」の星を制作し、他者へ感謝する心を涵養させることができた。 ・「自分や相手が大切だ」と思う児童は98％だった。 ・本校の重点目標である「3つの笑顔」を念頭に置き、一人ひとりの学習面、生活面を支援することができた。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「やまうち言葉」の「優しい言葉」を周りの人」を意識して行動できる児童（自己評価）を90％以上にする。	・「Q-Uアンケート」「いじめアンケート」「教育相談」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応に努める。	B	・6月にいじめ・体罰アンケートを実施し、その結果を受けて、気になる児童に対して教育相談を実施することで、全ての事案に対して早めに対応することができた。	B	A	・児童の評価アンケートで、94％の児童が優しい言葉を周りの人に意識して行動できていると答えており、目標達成することができた。 ・年間を通して、「Q-Uアンケート」「いじめアンケート」「教育相談」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応を行うことができている。来年度も継続してきたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80％以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85％以上	・毎日の帰りの会で、いいことをした人や頑張った人を紹介する場を設け、児童の発表に対し、肯定的なコメントをしたり、教師から紹介をしたりする。 ・行事ごとに、キャリアパスポートを活用し、目標を達成できた児童や頑張った児童を紹介する場を設ける。	B	・各学級、帰りの会において、児童のよい行い等を紹介し、称賛する時間を設定することができている。一人一人の児童を認め、高めようとする意識が醸成しつつある。 ・キャリアパスポートについては、行事ごとに活用することで、主体的に取り組む児童の姿を見ることができている。マンネリ化しないよう工夫してきたい。	B	A	・教科を越えて、児童の主体的な学びを促すため、興味・関心のあることや、将来の夢について考える機会を与え、夢や目標を意識させることができた。 ・キャリアパスポートを随時活用し、目標を達成することができた児童を称賛したり、目標達成のために支援したりすることができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答をした児童は91％だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は89％だった。
	○行事や他教科との関連を意識した道徳科の授業実践	○職員アンケートで「行事や他教科等との関連を意識した授業を実施できた」と思う教職員を80％以上にする。	・「ふれあい道徳」を年に1回以上、全クラスで実施し、学級便り等で保護者に知らせる。	B	・9月に「ふれあい道徳」を実施した。各クラスで道徳の授業を公開し、学級便り等で伝えることができた。 ・80％以上の学年が、行事や他教科との関連を意識した道徳科の授業を実施できた。	B	B	・職員アンケートで「行事や他教科等との関連を意識した授業を実施できた」と思う教職員は92％だった。 ・保護者アンケートで「学校は、道徳科の授業を工夫し、道徳的判断力を培ったり、豊かな心情を育んだりすることに努めていると思いますか。」の結果、達成率は98％だった。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童100％を目指す。 ○朝食をとって登校する児童90％以上を目指す。	・給食時間の放送を通して、食材の産地や調理方法に関心をもち、食事の大切さに気付かせる。 ・各学級で食育指導を行い、食事の必要性に気付かせる。	B	・「健康に食事は大切である」と考える児童は97％で、100％にわずかに達しなかった。 ・朝食をとって登校する児童は89.6％で、90％にわずかに達しなかった。登校日ではないが、土、日は遅く起きるため朝食をとらない児童が数名いることが分かった。	B	B	・「健康に食事は大切である」と考える児童は、5年生の県調査では100％を達成できた。全校アンケートは、前回と同じく97％だった。 ・朝食をとって登校する児童は、96％で中間評価を大きく上回り、目標の90％を達成することができた。
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○登下校や休み時間を含め、運動やスポーツなどで体を動かす時間が1週間（280分（1日40分程度））以上の児童70％以上	・登下校は原則歩いてすることを推奨する。 ・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行う。運動委員会の児童に全校遊びを計画させ、実行する。 ・地区児童会や学級指導を通して、放課後や長期休業中の時間の使い方を指導すると共に、外で体を動かすことに関心を持たせる。	B	・登下校は原則歩いていくことを年度初めに周知した。 ・地区児童会や各学級で地区での過ごし方や遊び方を指導した。 ・熱中症予防のため、室内で過ごすことが多かったため、室内での過ごし方を指導した。 ・今後、運動委員会が中心となって全校遊びを計画し、実施する予定である。	B	A	・児童アンケートでは「登下校や休み時間などを含めて1日40分以上体を動かしている」児童は89％であった。1週間にすると280分以上体を動かすことができている。 ・全校遊びやなわとび週間を通して、体を動かすことの楽しさを感じさせることができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日（毎週金曜日）を確実に実施し、18時に施錠する。 ・校務システムを利用して、職員が効率良く業務を行えるようにする。	B	・金曜日の定時退勤時間は徹底できていない。引き続き管理職から声掛けを行っていく。 ・職員会議や連絡事項など校務システムを活用して効率的に実施できている。	B	A	・勤務時間の上限を超えない範囲で業務を遂行できたと思えた教職員は81％であった。 ・超過勤務の平均が45時間を下回っているが、週1回の定時退勤日の実施が徹底できていなかった。 ・校務システムを効率よく活用しながら業務の遂行ができおり、業務改善の意識をもって取り組んだ教職員は100％であった。
	○「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90％以上にする。	・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的にかつ積極的に情報発信する。	A	・学校だよりを校区内へ配布したり、学校行事予定等をホームページに公開したりして学校の様子を幅広く周知することができた。また地域と連携した教育活動が実施できている。	A	A	・「開かれた学校づくり」に努めていると肯定的に捉えている保護者は99％、教職員は100％であった。 ・地域と連携した教育活動や情報発信を積極的にを行い、開かれた学校づくりが実施できている。
●特別支援教育の充実	○教員の児童理解と支援力の向上	○職員アンケートで特別支援教育に関する児童理解と支援策を意識して指導する教職員80％以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、連絡会による情報共有をする。	B	・特別支援教育に関する児童理解と支援策を意識して指導している職員は、79％であった。（アンケートより） ・ケース会議や配慮を要する児童について担任からの丁寧な説明とその対応策について共通理解の場を設けたことで、有効な支援、指導を意識することができている。	B	A	・配慮を要する児童を理解し、個に応じた支援策を意識している職員は94％であった。 ・配慮を要する児童に対しては、ケース会議や連絡会等を通して情報を共有し、全職員がそれぞれの立場から関わる事ができた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		達成度 (評価)	最終評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果
○志を高める教育	○自らの夢や目標をもち、それに向けて努力しようとする気持ちを高める教育活動の推進	○学校行事において自分の目標を意識して取り組める児童を85％以上にする。	・キャリアパスポートを活用し、自分の目標をもち、振り返りを行うことで、自主的・自発的に達成するという意識を高める。	B	・キャリアパスポートを活用して年度当初に個人のめあてを設定した。また、大きな行事の際に、キャリアパスポートでめあてを立てたり、振り返りをまとめたことにより、次の活動に自主的に取り組もうとする意欲を高めた。	B	A	・学校行事において自分の目標を意識して取り組める児童が95％であった。キャリアパスポートに活動の目標と振り返りを記入することで、見直しをもって活動に取り組ませた成果であると考えられる。
○教育相談体制の充実	○児童が安心して教育を受けられる相談体制の充実	○心のアンケートと教育相談の実施により児童に寄り添う支援ができた教職員90％以上を目指す。	・教育相談期間を定期的に設定したり、心のアンケートに取り組んだりすることで、児童一人一人の状況を把握し、温かい声かけや支援を行っていく。	B	・8月にいじめ・体罰アンケート、10月より心のアンケートを実施し、気になる児童に対して教育相談を行った。 ・7月に「Q-Uアンケート」を実施し、その結果を用いて、結果の見方と活用に関する職員研修を実施した。また、その研修を受けた後、Q-Uアンケートを活用して全児童に対して教育相談を行った。	B	A	・1月1回「心のアンケート」を実施。その結果、職員の100％が「心のアンケート」を行ったことにより児童に寄り添う支援ができたと思えた（少しあてはまるを含む）。また、保護者アンケートでも児童・保護者アンケートや教育相談がいじめの防止につながっていると思うと回答している割合が91％であり、アンケートを有効に活用することができた。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・「主体的に学び続ける教師・児童の育成」をテーマに、教師間では個別最適な学び・協働的な学びの推進に向けて取り組んできた。ICT機器を積極的に活用しわかりやすい授業を行ったことで、学習内容がよりわかると答えた児童が96％であった。また、「授業づくりのステップ1,2,3」を意識してステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」や「振り返り」はステップ3を達成した教員は73％であった。次年度は、引き続き基礎基本の学習内容の定着と思考力・判断力・表現力がさらに向上するように自己調整する力や粘り強く学ぶ態度を育てていきたい。 ・挨拶、返事、言葉遣いに関して、98％の児童が肯定的に取り組むことができていた。昨年度と比較すると伸びてきている。人権集会や異学年交流、道徳の時間を通して、自分も相手も大切にすることを育む教育活動を行ってきた結果、98％の児童が肯定的に捉えることができていた。今後も継続して取り組み、困っていることや辛い思いなど自分の気持ち传达えられるように教育相談体制を整え、支援体制を構築させていきたい。児童の良さを伸ばし、一人一人を認め、励ましなが、自己肯定感を高める教育活動の推進を行っていく。 ・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行ったり、運動委員会が中心となって全校遊びを実施したりして、体力向上の取組を行った。全校で取り組むことで、体を動かすことを楽しみながら体力の向上に努めることができた。 ・「健康に食事は大切である」と回答する児童は、98％、「朝食をとって登校する」児童は、96％であり、望ましい食生活は向上した。家庭での基本的な生活習慣の定着に向けた取組についても、保護者アンケートでは94％の保護者が肯定的な回答をしている。食習慣の意識は高く、食事の大切さは認識できており、今後も食育年間指導計画に基づく計画的な指導を更に充実させていきたい。 ・授業参観や学校行事への参加率は80.5％と高く、学校教育への関心が高い。保護者の意識調査でも、授業参観や学校行事に積極的に参加していることに肯定的な保護者は97％だった。開かれた学校運営に向けてさらに努力してきたい。
--------------------	--